

# コロナ禍を超えて ～教育のパラダイムシフトを目指して

宇佐川 毅 熊本大学 理事・副学長

NII 【第23回】4月からの大学等遠隔授業に関する  
取組状況共有サイバーシンポジウム

2020年12月25日 12:11 JST

# 2020年2月までの準備状況



Kumamoto University

- 2002年  
全学必須の情報リテラシ教育Blended  
型で開始  
(e-Learningシステム全学展開)
- 2004年  
Instructional Designを中核とした大学  
院「教授システム学専攻」を開設
- 現在、毎年約 6000 科目を開講  
しかし、前年度末までに、LMS上の  
rich contents は、、、



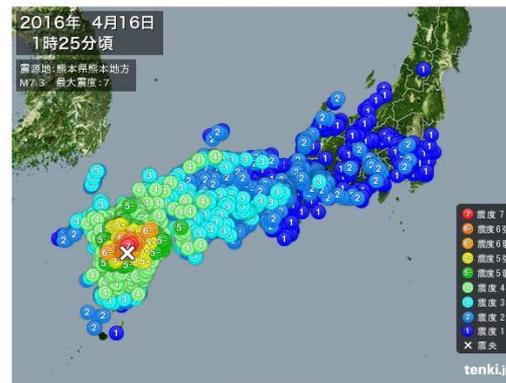
学内のInstructional Designの専門家はいても、全学的にみると教員の関心は限定的

# 急激な変化 — 2016年の地震でも



Kumamoto University

- COVID-19による状況の変化 と 2016年の地震(4/14-16)による影響を比較し、対応を検討



研究室の状況: 完全な機能停止



建物への立ち入り規制

# COVID19 vs 熊本地震



	COVID-19	熊本地震
When	After March 2020	April 15th, 2016 (第1週の講義終了後)
ICT 環境	学務システム・LMS は <u>Single-Sign-On(SSO)</u> で利用可能	==
Issue #1 Readiness - 学生	新入生には、リエンターションもできていない	!= (1週目は終了)
Issue #2 Readiness - 教員	本当MUST だったが、、、	!= (必須ではない)
Issue #3 いつ終わるか	不明。2021年度も覚悟が必要。	!= (想定可能)
著作権	包括的 (SARTRAS)	個別対応

# Issue #1 & #2 : Readiness



Kumamoto University

## Issue #1

- #1: 1年生は、大きな問題なく対応  
キャンパスへの立ち入りは規制あり。1年生はSSOへのアクセス方法を知らない状況だったが、短時間のオリエンテーションで対応してくれた。

## Issue #2

- #2: 教員は新しい生活様式への対応に苦勞した方も少なくない
  - zoomでzoomの使い方を講習会を開催。
  - 本シンポジウムに模して学内版シンポジウムを開催。
  - zoom-help-desk を開設し教職員・学生を支援。



- 制約:
  - 教員の負担は確かに大きかった。
- しかしメリットも実感：
  - 同期型講義 (ZOOM) - 学生からの質問の増加(チャット利用)や投票機能によるClickerの実装などで双方向性の確保。
  - 非同期型講義 - 基本的にZOOM講義は、VODサーバで配信。学生からは、自学自習等で活用できているとの声。
- 講義ビデオは宝山！
  - 講義ビデオは、次期講義での活用のみならず、大学の教育資源のSHOW-CASE にもなる。

**大量の教育データ～Learning Analyticsの対象**

# 例：VODサーバーの登録件数等

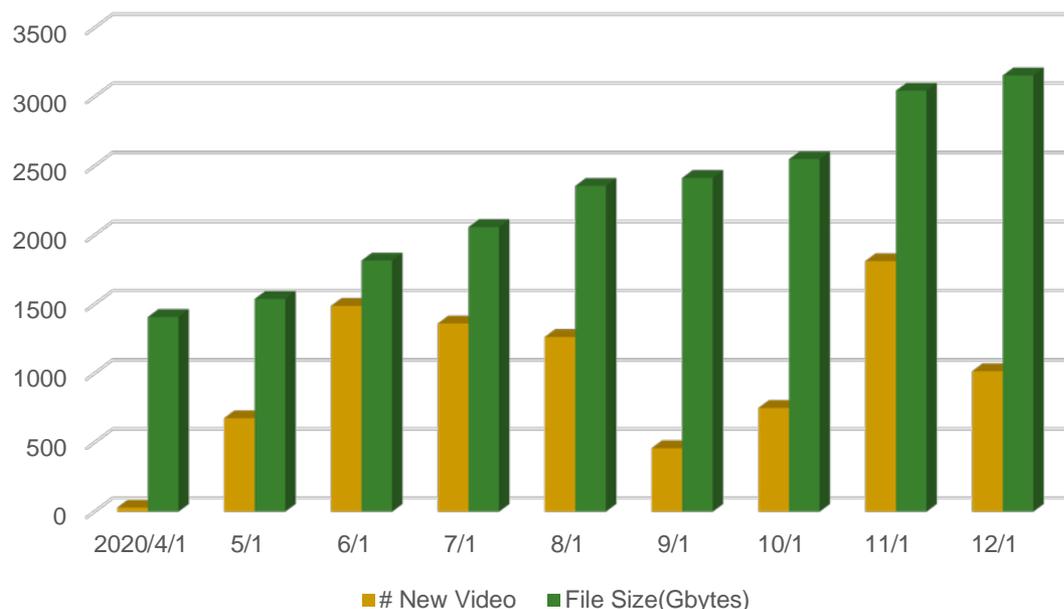


## ■ 4月以降のzoom講義数

- 第一ターム(4月～6月)  
2328科目中 1222科目が Zoom (52%)
- 教養教育は100%

## ■ 毎月1,000本以上の講義ビデオ

9ヶ月で1.6 Tb,  
(コロナ以前10年:  
1.4 Tb)



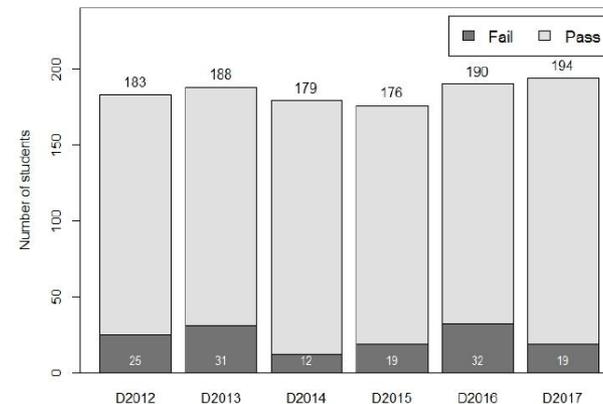
この講義ビデオを活用・分析しない手はない！

# 例：個々の学生のケアーを目指し

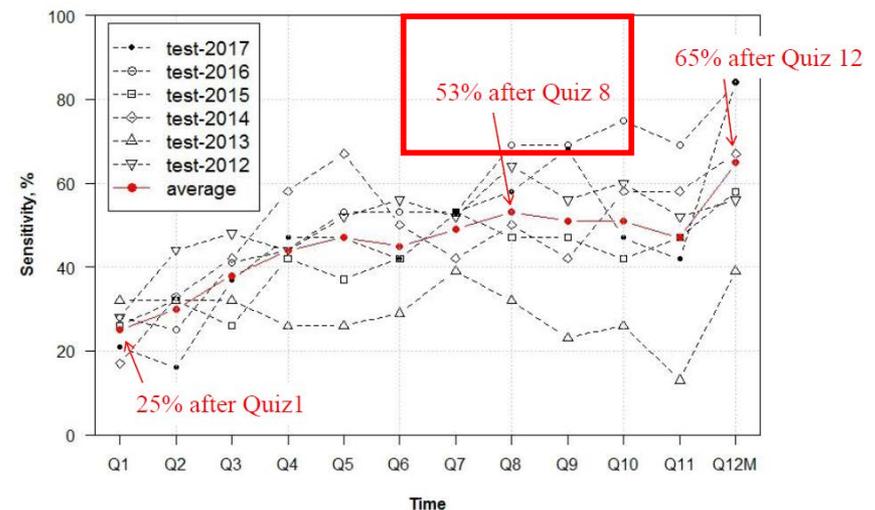
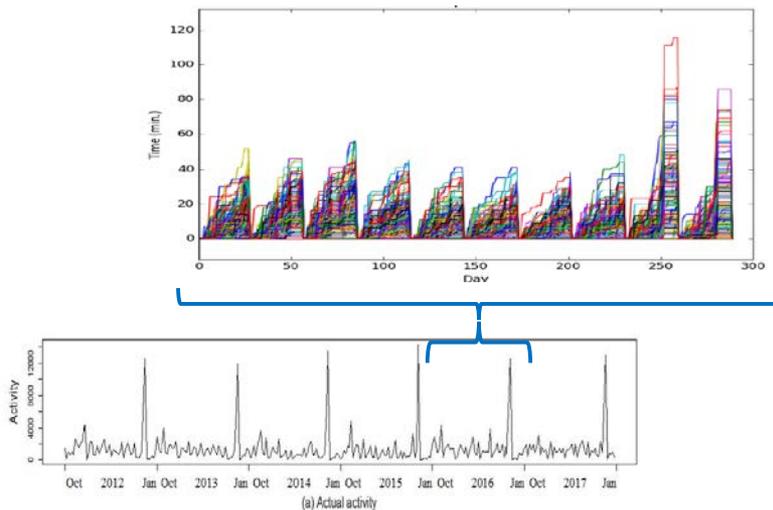


Kumamoto University

- 2年生向けの必修科目  
(毎週online QUIZ;  
6年分:40万件程度のlog)
- 不合格者する可能性のある学生に、少しでも早く声をかけたい！



Average of 12% failure rate



# まとめに代えて



Kumamoto University

- このパラダイム・シフトを成功させるためには、
  - 教員や学生への支援
  - 教育の質の向上のための継続的な取り組み
  - 新しい生活、新しい教育に向けた情熱が必要だと感じています。



貴重な機会をいただき、ありがとうございました。